

初年度 交流活発化描く

新温泉の連携型中高一貫教育校3校

町支える人材 育成する場に

連携型中高一環教育校の3本柱

	夢が丘中・浜坂中	浜坂高
地域探究	ふるさと学習、町歩き探究活動、中高合同フィールドワーク、シン・温泉検定	地域課題の解決策の探究活動、浜高ラボ
キャリア教育	職業調べ、職場見学、トライやる・ウィーク、進路学習	進路講演会、就業体験、多様な進路に対応した個別指導
国際交流	ニュージーランド姉妹校との交流、台湾連携校とのオンライン交流	台湾修学旅行で連携校と対面交流

今春から「連携型中高一貫教育校」に移行した新温泉町の浜坂高、浜坂中、夢が丘中。県教委と町教委は、これまで以上に中高の連携を強化し、交流を活発化させる構想を描いている。

（松本妙子、安部航太）

著しい少子化や浜坂高の「育校」に移行した。兵庫県3例目。今年、浜坂高では入学減少を背景に、設置内では丹波市の氷上西高と連携中学の生徒39人が連携主体が異なる学校同士が連青垣、氷上の両中学、実業型入学試験を受検し、全員携する「連携型中高一貫教市の千種高と千種中に次ぐが合格した。

■3本柱掲げ

県教委は、「地域探究」「キャリア教育」「国際交流」を中高連携の3本柱とする。町教委管轄の幼小中の連携枠を高校にも広げ、中高6年間の継続した学習や活動の展開を描く。

新温泉町では、中学のふるさと学習や中高合同フィールドワークを土台に、高校での地域探究学習につなげる。小中学校で将来を描く「キャリアパスポート」の取り組みを高校でも生かすため、中高の教員の連携強化を進める考えだ。

また、国際交流の取り組みも連動。浜坂、夢が丘両中学校が行うニュージーランド姉妹校や台湾連携校との交流を、高校の台湾修学旅行につなげる。文化祭や体育祭、部活動などへの相

互参加も協働する構想だ。大学や地元企業とも緩やかにつながりを持つ。

■地域を守る

連携型への移行は、将来の町を支える人材の確保が念頭にある。隣の鳥取県教委は、2027年度から県立高校の生徒を全国募集する。近年は同町から鳥取市へ進学する生徒が増え、さらなる町外への生徒流出が懸念されている。

浜坂高の西岡優子校長は「各校の文化や良さを生かし、必要部分だけ接続できるのが連携校のメリット」と説明。「地域と共に未来を創る地域人材の育成にも注力したい」と話す。

町教委（こども教育課）は「地域の学校維持や人材育成は、地域の将来を守ることにもつながら」と意義を強調。県教委高校教育課は浜坂高の学習スペース「探究BASE」の整備完了などを挙げ、「町内外から選ばれよう高校の魅力を高めたい」と力を込めた。